内子座 藝於遊

屋根まわりの木部の解体③

令和 8 年 2 月 12 日、舞台西側にある役者便所（大道具搬入口）の屋根下地材解体が始まりました。この屋根の下地材には、内子座創建当時のように竹が使用されており、昭和の復原修理工事を記録した『内子座 80 の年輪』にも、“屋根下地は当初は竹下地であるが、役者便所裏にのみ残し、他はすべて野地板下地に替え”と記述されています。これまで解体してきた野地板は、昭和の時の新たな材ですが、中には内子座のどこかで使われていたと思しき転用材もあったりと、保存修理解体ならではの面白さもありました。

左の 2 枚の写真は、茶風呂と呼ばれている場所の屋根の様子です。上が野地板解体前で、下が解体後になります。この部分も昭和の復原修理工事の際に、屋根下地材は修理されていますが、南面は古材が使われています。上の写真の右側（古材）と左側（新材）で野地板の色が違うのがわかるでしょうか。

◀左の写真は、舞台上手の 2 階の柱に残されていた墨書きです。誰がいつ書いたものかは不明ですが、大屋根の野地板がなくなり、明るくなった内子座ではっきりと見えるようになりました。”ナンジ“と胴体部分に書かれているように読め、命名ナンジ君、内子座の新たなキャラクターになるでしょうか？

役者便所の屋根下地材解体の様子
（2 月 12 日撮影）

内子小 6 年コミスク

令和 8 年 1 月 27 日、内子小学校のコミュニティスクール授業で、6 年生が内子座を見学しに来てくれました。これまでは様々な学年が内子座を訪問してくれていましたが、工事期間中は難しく、ようやく 6 年生の実施が実現となりました。大正時代について内子座を通じて学び、工事現場見学や瓦の打音検査を体験するなど、保存修理工事中ならではの学習の時間となりました。

編集・発行：内子町町並・地域振興課